

第13回中央新幹線小委員会 議事要旨

平成22年12月8日(水) 10:00~12:15

<蒲生幹線鉄道課長より、中間とりまとめ(素案)について説明>

<中間とりまとめ(素案)に関する委員からの主な意見>

【意義】

- ・ 地域に与える効果に関してプラス面のことばかりが記述されているが、ただ単にプラスになるとは限らないので、条件のようなものを付してはどうか。
- ・ 文章の主旨と合致していない見出しがあるので、再考していただきたい。
- ・ 時間短縮による効果について、これから高齢化社会を迎えるにあたり、2時間で移動するのか、1時間で移動するのかで旅客輸送の意味合いが異なる。
- ・ 高齢者だけでなく現役世代の人々に対する生産性向上ということも言えるのではないか。
- ・ 人口減少を補う移動の効率化という書き方をしてはどうか。
- ・ 「ライフスタイルの大きな変革」という表現がそれぞれの世代に当てはまり国民に響くのではないか。
- ・ 高速鉄道の「リノベーション」という表現よりも「イノベーション」という表現が良いのではないか。

【走行方式】

- ・ 在来新幹線方式の記述の乗客の死傷事故ゼロについて、わかりやすい表現にできないか。
- ・ 超電導リニア方式の記述で、「独自性」という表現よりも、「独創的な」という表現のほうがいいのではないか。
- ・ 上海リニアとの比較を良く聞かれるため、その違いがわかるように資料を入れていただきたい。
- ・ P4の②における超電導リニアの意義について、もう少し表現を強めてもいいのではないか。
- ・ P4の①(i)における加減速性能に関しては、「全速度域にわたる高い加減速性能」とすべき。
- ・ 海外展開においても超電導リニア方式と在来型新幹線方式を比較すると優位性を確保できると言えないか。
- ・ 海外展開については、意義の項目に書き入れることとする。

- ・超電導リニアの安全基準は、現在の新幹線の安全基準をベースにしていると記載して頂いた方がよい。
- ・可能であれば、安全基準の基本的な思想を記述していただきたい。

【ルート】

- ・ルートの比較において、費用対効果分析による比較結果のところの表現について違和感があるので、再考いただきたい。
- ・環境について「施工上の十分な配慮が必要」と記述されているが、その後の維持管理、運営上の配慮は必要なのではないか。
- ・施工上の配慮が妥当であったかどうか評価する必要がある、維持管理、運営上の配慮に加えて、モニタリングを入れてはどうか。
- ・環境に項目で「地形・地質等調査の範囲」と記述されているが、一般国民にとっては、イメージが湧かないので、わかるようにしていただきたい。

【営業主体・建設主体】

- ・5. ①について、東海道新幹線との経営を一体的に行うことが必要不可欠という表現は強すぎるので、表現を考えていただきたい。
- ・文章中で第〇回小委員会で示したという表現はせず、「JR東海が示した計画」であるとか、「当委員会で行った需要予測」というようにすべき。

【付帯意見】

- ・山梨県～長野県間以外の地域の環境調査についてなど、今後の小委員会で扱う予定は付帯意見からは除くべき。
- ・全体的にミクロ的な内容が多く、他の交通機関に関する広い視点からの記述を含め、国土政策的な観点からの記述を追加すべき。

【その他】

- ・費用対効果分析の表など、重要と思われる資料については添付した方がよい。参考資料について検討していただきたい。